

桑名市議会議員  
愛敬

～桑名市民病院と山本総合病院との再編統合～  
新病院に期待する病院像と桑名の医療連携

第1部講演会

「地域医療と大学病院」

講師：三重大学医学部附属病院 病院長 竹田 寛氏



竹田院長からはまず三重大の新病院完成までのポイントの解説がありました。

簡単にまとめてみました。

1. 患者さんを中心とした病院

(1) 臓器別の診療体制

(2) 患者さんやご家族の治療や生活を支援

医療福祉センターの強化

(例) 外国の方が多く通訳を

配置しました。

がんセンターの充実

リボンス・ハウスの設置 (がん患者さんやご家族の生活支援・情報交換の場所確保)

Child Life Specialist(CLS)の配置 (小児科)

患者権利擁護委員会・患者図書館の設置・コンビニやコーヒーショップの開設

2. 安全な医療の遂行 (竹田先生はここを一番重要視していました)

(1) 安全管理部

専従の医師1名、看護師長1名、薬剤師1名、警察官 OB2名 (非常勤)、弁護士1名 (非常勤)

(2) 感染制御部

専従の医師1名、看護師長1名

3. 地域医療への貢献

A) 様々なネットワークを介して県内病院との連携強化

(1) 三重医療安心ネット

(2) Mie Medical Complex(MMC)

B) 救急医療体制の整備

三重県、特に津地域の救急医療体制は劣悪

救急部を20床に増床 (平成22年6月)

救命救急センター開設

#### 4. 予防医学の推進

##### (1) 検診センター

PEC-CT 検診、遺伝子診断など大学病院に特化した検診も行う

##### (2) 生活改善

各種疾病に対応した食事メニューの開発（栄養管理部）など

これからの病院とは

やはり、若い医師に魅力ある病院にしなければなりません。

それには、以下の4点があがっておりました

##### (1) 総合的な診療

家庭医療（総合診療）

ここでは内科医と総合診療医（家庭医療医）の違いについて特に説明がありました。

内科医：循環器・消化器・呼吸器など専門性を追求

総合診療医（家庭医療医）：内科、外科、小児科、産科、皮膚科、救急などがあらゆる一次医療を担当し一次（二次）救急も担当できる。

##### (2) 特色のある診療

専門性の高い診療

##### (3) 大学病院など他の病院との連携を深める

医療ネットワークに参加（三重県はひじょうにこの点は強いです）

・救急医療ネットワーク

県内4救命救急センターとの連携強化

・各種医療ネットワーク

三重医療安心ネット

**Mie Medical Complex(MMC)**

みえ治験医療ネットワーク

三重乳がん検診ネットワーク

##### (4) プライベートな生活を楽しめる環境

桑員地区の病院には研修医希望者が多い

これからの病院としてのまとめ

##### (1) 患者さんに優しい病院

患者給食、売店、患者図書館などの充実

##### (2) 家庭医療センターの設置

一次医療と救急医療（一次、二次）

##### (3) 臓器別の専門診療

内科医・外科医

##### (4) 特色ある診療

例：ラジオ波治療等

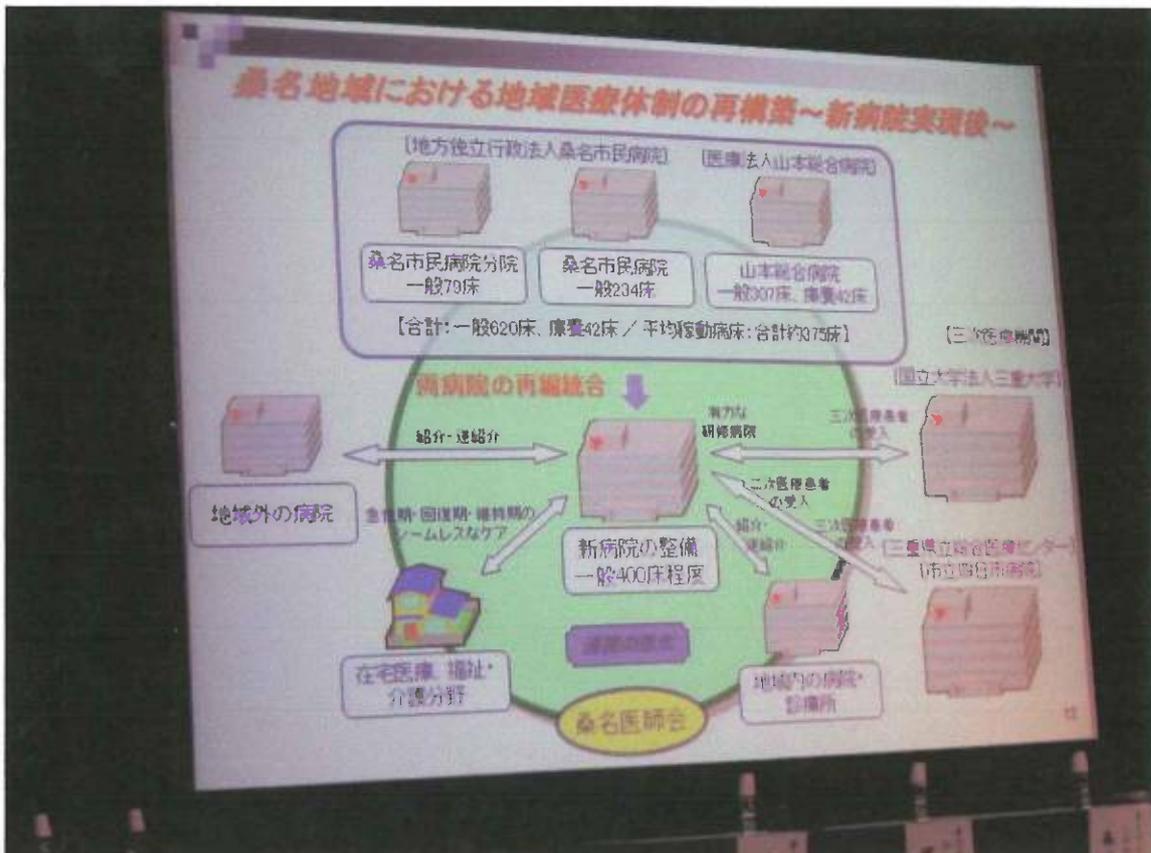
##### (5) 医療ネットワークに積極的に参加

三重医療安心ネット

パネルディスカッションでは先に、三浦副市長と桑名医師会伊藤会長より先に新病院に対する理想像や役割など話がありました。



- ・救急、小児、周産期等の医療を安定的・継続的に提供し、地域で二次医療を完結できる病院
- ・桑員地区だけでなく、四日市地域で受け入れきれない二次医療患者を受け入れ、医療機能を相互補完し合える病院
- ・三次、一次医療機関との機能分担・連携はもちろん、在宅医療や介護、福祉分野との連携機能を持った病院

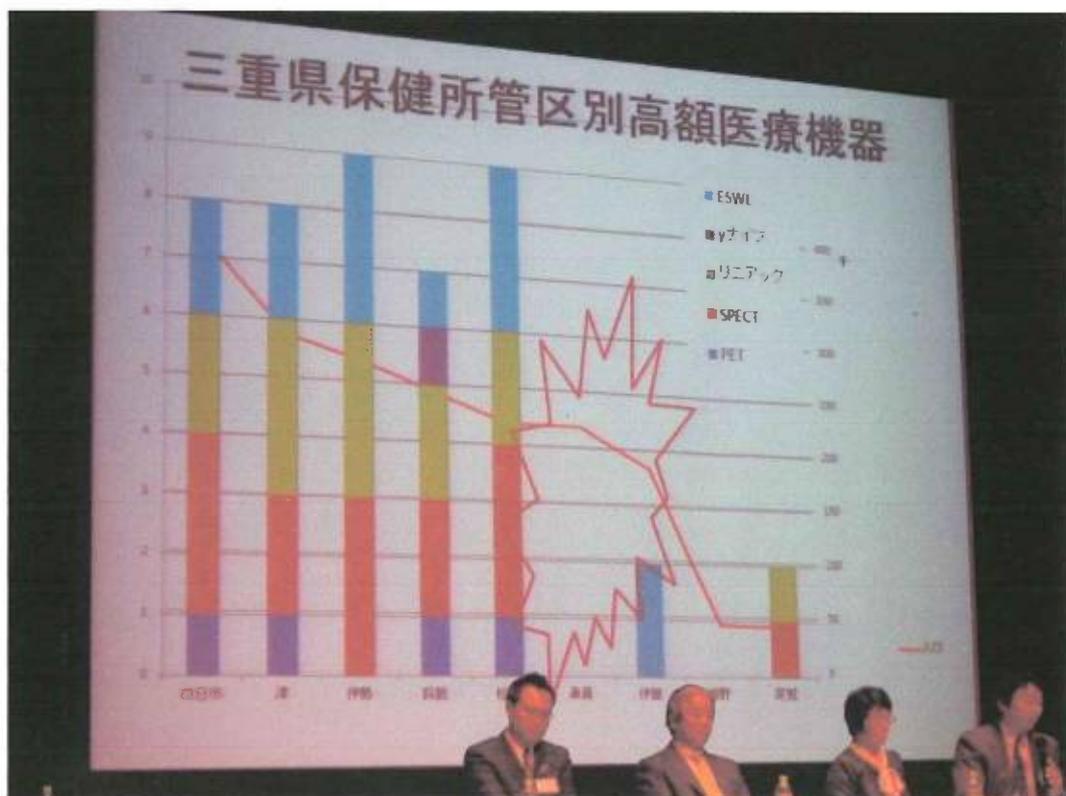


パネルディスカッションでは、以下の3点に絞って各パネリストの先生からコメントがありました。

1. 小児医療体制の充実
2. 新病院に対する期待
3. 地域医療を守る市民の役割

パネリスト：三浦副市長・伊藤会長・市民病院：森谷先生・村松先生 山本病院：水野先生

各パネリストの先生からは、現場の生の声が聞け、ひじょうに勉強になりました。  
 やはり新病院は机上の判断だけではなく、現場に働く医師・看護師・他職員やその病院を利用する市民の声を充分聞き、働きやすい環境・安全・安心に利用しやすい環境整備を進め設計してもらいたいと感じました。



以上